

2020年3月9日
日本銀行横浜支店

神奈川県金融経済概況（2020年3月）

I. 概況

神奈川県は、基調としては緩やかに拡大しているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響がみられており、不確実性が高まっている。

輸出は弱い動きとなっている。設備投資は増加している。個人消費は、雇用・所得環境が着実に改善するもとで、振れを伴いつつ緩やかに持ち直している。住宅投資は弱めの動きとなっている。公共投資は高い水準で推移している。生産は、弱めの動きとなっている。

こうした中、足もとでは、宿泊や観光を含む個人消費のほか、生産の一部で新型コロナウイルス感染症の影響がみられている。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出： 弱い動きとなっている。

- 化粧品等は増加しているものの、米国、中国を含むアジア、欧州向け自動車・同部品、金属加工機械等が減少していることから、弱い動きとなっている。

(2) 生産： 弱めの動きとなっている。足もとでは一部で新型コロナウイルス感染症の影響がみられている。

- ・ 素材関連は、横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 輸送機械は、トラック・同部品が横ばい圏内の動きとなる中、乗用車・同部品が国内向けのほか、中国・北米向けなどで減少を続けていることから、弱い動きとなっている。足もとでは、一部において、中国からの部品調達の関係で、新型コロナウイルス感染症の影響がみられている。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置などが横ばい圏内の動きとなる中、工作機械などを中心に、弱めの動きがみられる。
- ・ 電気機械は、電子部品・デバイス等の需要が増加していることから、持ち直しの動きがみられている。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 19/12月短観における19年度の設備投資は、前年度から持ち越した投資案件のほか、成長分野における競争力強化に向けた投資、人手不足に対応した無人化・省人化投資、老朽化設備の更新投資等を中心に、2年連続で前年度を上回る計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用・所得環境も着実に改善している。

- ・ 20/1月の有効求人倍率（就業地別）は、前月から低下したものの、引き続き高い水準となっており、労働需給は引き締まった状態が続いている。こうしたもとで、常用雇用者数と名目賃金は増加基調にあり、雇用者所得は着実に改善している。

(5) 個人消費： 振れを伴いつつ緩やかに持ち直しているが、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響がみられている。

- ・ 百貨店売上高は、暖冬の影響もあり、主力の衣料品が低調となっていることなどから、総じてみれば弱い動きとなっている。足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響がみられている。
- ・ スーパー売上高は、惣菜商品が堅調に推移しているものの、家計の節約志向等の影響から、弱めの動きとなっている。
- ・ 家電販売額は、携帯電話が低調となっているものの、白物家電やテレビ、パソコンなどを中心に持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、持ち直しの動きが一服している。

《参考》

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響から、県内の宿泊施設の客室稼働率は低下しているほか、県内の観光施設の利用者数は減少している。

(6) 住宅投資： 弱めの動きとなっている。

- ・ 20/1月の新設住宅着工戸数は、分譲マンション、分譲戸建て、貸家、持家が減少したことから、全体では前年を下回った。

(7) 公共投資： 高い水準で推移している。

- ・ 20/1月の公共工事請負額は、市町村が増加したものの、都道府県や国、独立行政法人等などが減少したことから、全体では前年を下回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出：引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けは住宅ローンを中心に増加しているほか、法人向けも不動産業などを中心に増加している（貸出金末残前年比：19/12月+0.4%→20/1月+0.6%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある（月末貸出約定平均金利：19/12月1.087%→20/1月1.086%）。

(2) 預金：引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：19/12月+2.8%→20/1月+2.5%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。